

鹿沼市における多文化共生プランの策定について ～顔の見える関係から始まる地域づくり～

栃木県鹿沼市総務部企画課主査 柿沼 紀子 (第9期多文化共生マネージャー)

かぬま多文化共生プラン策定の経過

鹿沼市は人口約102,000人、外国籍市民は約1,000人で、人口比は1%である。決して外国籍市民が多い自治体ではない。その鹿沼市が「多文化共生プラン」を策定するきっかけになったのは、2009年度に全国市町村国際文化研修所 (JIAM) で実施された「災害時における外国人への支援セミナー」と「多文化共生マネージャー養成コース」の2つの研修への受講であった。これらの研修において、多くの出会いと気づきがあった(注)。

ファシリテーターである特定非営利活動法人多文化共生センター大阪・代表理事の田村太郎氏から、「多文化共生」は、「かわいそうな外国人を助けてあげるのではなく、共生していくことにより、地域を活性化する原動力を得ることだ」と学んだ。研修で出会った講師や、同期の多文化共生マネージャーの活躍からもそのことを学んだ。

プランを策定することは誰にでもできる。策定したプランを絵に描いた餅^{もち}にせず、多文化共生の地域づくりを鹿沼に根差した活動として継続させなければ意味がない。

プラン策定中、プランの策定委員とともに視察に訪れた外国人集住都市の担当者に聞かれた。「何のために、プランを作るのか?外国人を取り巻く環境は、刻一刻と変わっていく。プランの策定よりもやるべきことがあるのではないかと。」と。

その時まだ具体的にやるべきことが何かわからなかった私は答えた。「プランを作る過程で、協力者と共通認識を持ち、やるべきことを具体化し役割分担をしていきたい」と。

本市のプランは、公募市民・外国籍市民・関係団体等選出委員で組織された委員により、鹿沼市での課題、取り組むべき事業、誰が何をやるか、どんな役割分担をするかなど、7回にわたる議論を重ね、2011年2月に完成した。

プラン策定のメリット

プラン策定には、多くの時間がかかったが、メリットも多くあった。まずは、鹿沼で初めての本格的な外国籍市民意識調査を実施し、鹿沼市の状況を分析できたことである。また、話し合いの過程で、委員会委員や市職員など、多くの人にかか



かぬま多文化共生プラン
わってもらふことにより、関係者が問題意識を持ってくれるようになり、実施すべき具体的な事業柄がはっきりした。誰が誰と協力してどの事業を実施するか、真剣に話し合うことにより、役割分担と連携・協働が生まれた。鹿沼市の多文化共生の第一歩が始まった。

鹿沼市で実施した事業

策定したプランを実際の活動につなげるため、プランを策定した委員が中心になり、「多文化共生プラン推進委員会」を設置し、「多文化共生の地域づくり」をみんなで一緒に進めていくこととなった。プランに掲げた事業の中から、実施できた事業をいくつか紹介する。

①多文化共生講座～はじめの一步～

「一杯のお茶から世界が見える」

2011年12月、第1回目となったこの講座は、前半は外国籍市民の委員が教育や文化の違い・経済などのテーマについて意



多文化共生講座～はじめの一步～

見発表をし、後半は参加者がいくつかのグループに分かれテーマごとに意見交換をするというものであった。参加者が楽しめるよう、世界のお茶とお菓子をいただきながらである。

企画から運営・開催までを委員がさまざまな意見を出し合い実施した。役所の職員だけでは考え付かない多くのアイデアが出てきた。多くの人がかかわるので、人集めに苦労することもなく、参加者がまた来たいというイベントになった。今年度も新たな企画で、講座を計画中である。

②市役所職員の研修

職員に対する啓発も行った。多文化共生の業務は、多文化共生部門の職員が一人ではできない。全部門の市民生活担当者（いわば役所全体）が多文化共生の視点を持って業務にあたらないと意味がない。普段の業務に「ちょっとした心遣い」をすることで、外国人だけでなく、高齢者や子ども、女性、障害者などさまざまな市民が住みやすい社会に進化する。そこで、5年目以上の全職員を対象に「多文化共生」研修を実施した。この研修は、前述の田村太郎氏に講師を依頼した。多くの職員が、「多文化共生」に関する意識を変え、業務に活かせる研修となった。研修では、「自分が多文化共生の担当者になったら何がやりたいか」というワークショップを実施した。「3人寄れば文殊の知恵」。527人の職員からは、鹿沼でできるアイデアがたくさん出てきた。このアイデアは、今後の鹿沼市における宝物となった。

③センターの設置

上記のワークショップの中で、話題に上がったのが「多文化共生」の拠点となる施設の設置であった。日本人市民も外国籍市民も気軽に集える「セ

ンター」の設置について、多文化共生プラン推進委員会の委員が、設置場所・機能・役割・運営・資金等の検討・協議を重ねてきた。

2013年2月にはセンターが設置され、「鹿沼市国際交流協会」の本格的な活動が始まる。センターが行政と市民の懸け橋となり、多文化共生の地域づくりの拠点となるようにしたい。

活動から見えてきたこと

最近、ボランティアの皆さんから、「外国人のための避難所訓練」、「小さい子どもがいるお母さんのための日本語教室」、「外国籍市民への就職活動の支援」等、いろいろな話を耳にするようになった。



市長と外国籍市民の意見交換会

職員からも「窓口で説明する際の外国語」

、「マニュアルや案内の多言語化」、「相談言語の多様化」等の要望が上がってくるようになった。

プラン策定前には、外国籍市民もそれにかかわる人も、特に課題はないと思い込んでいたことが、プランの策定により、課題が表面化してきたのだ。現在設置している外国人相談も件数がどんどん増えている。

鹿沼市の活動は、多くのボランティアや職員、そして、JIAMの研修で出会った講師や全国の多文化共生マネージャー等、人と人とのつながりにより実現している。今後、センターの設置が、より多くの日本人市民と外国籍市民が楽しみながら課題を解決できる手助けになると良い。その手助けが私たち地域社会を活性化させ、鹿沼を元気にしてくれると信じている。

これからも、顔の見える関係を広げ深めながら地域とともに歩んでいきたい。できることから、少しずつ、少しずつ。

(注) クレアでは、2006年度より滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所（JIAM）、加えて2011年度からは千葉県千葉市にある市町村職員中央研修所（JAMP）とも共催し「多文化共生に関する研修」を実施している。

(<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/index.html>)